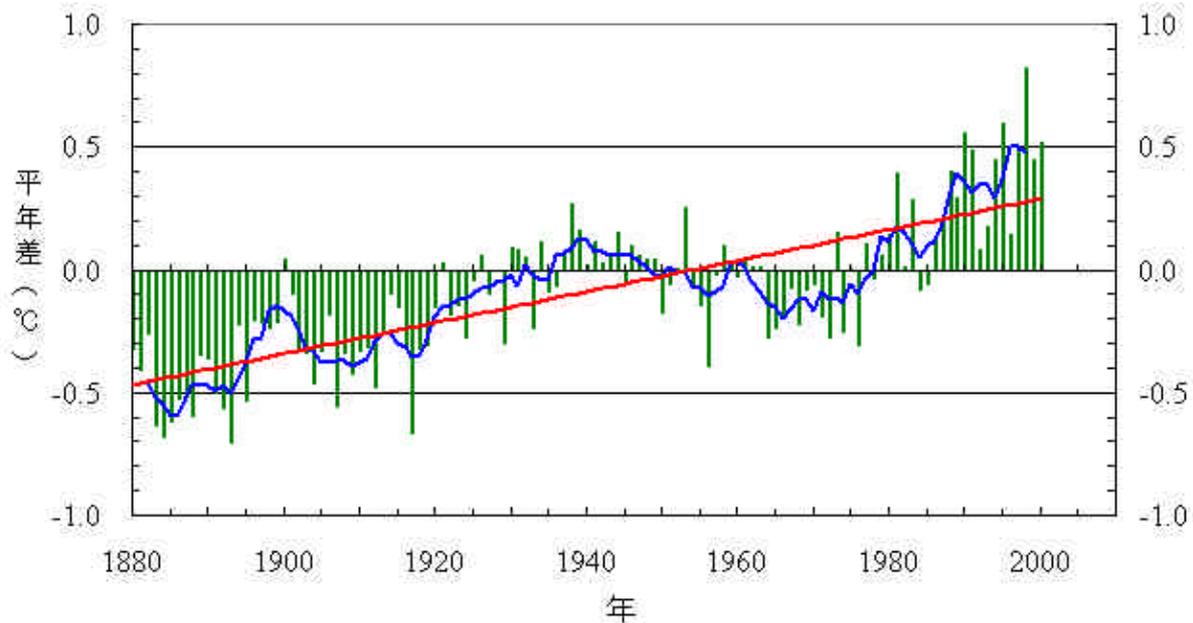


地球温暖化の状況等

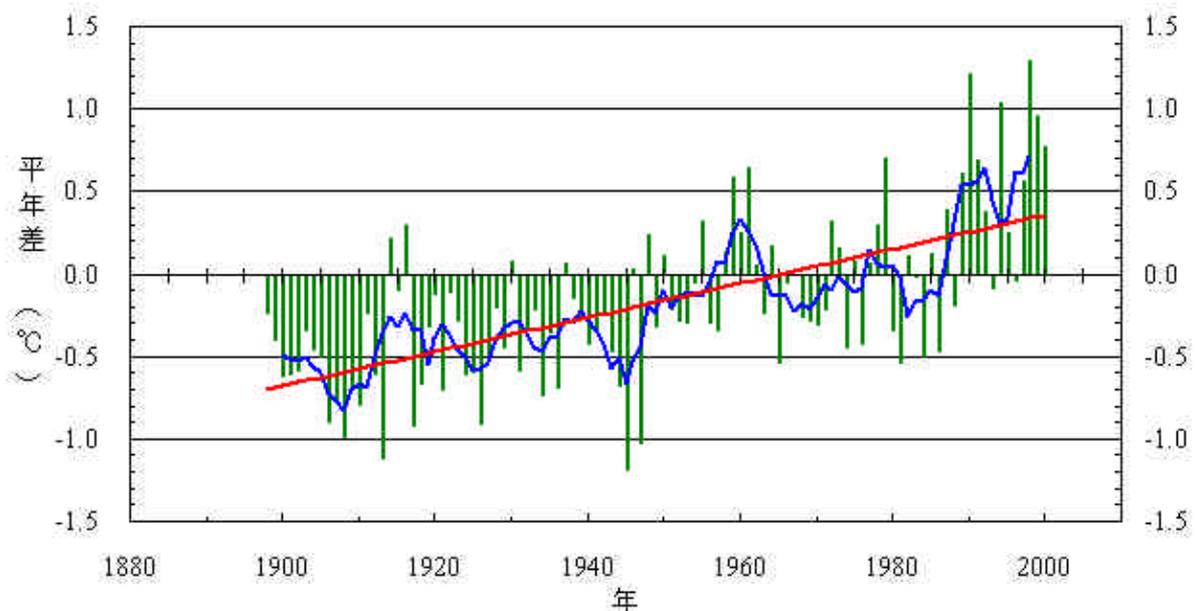
世界の年平均地上気温の平年差の経年変化（1880年～2000年）



〈出典〉「気候変動監視レポート2000」より抜粋

〈注〉棒グラフは各年の値。折れ線は各年の値の5年移動平均を、直線は長期傾向を示す。

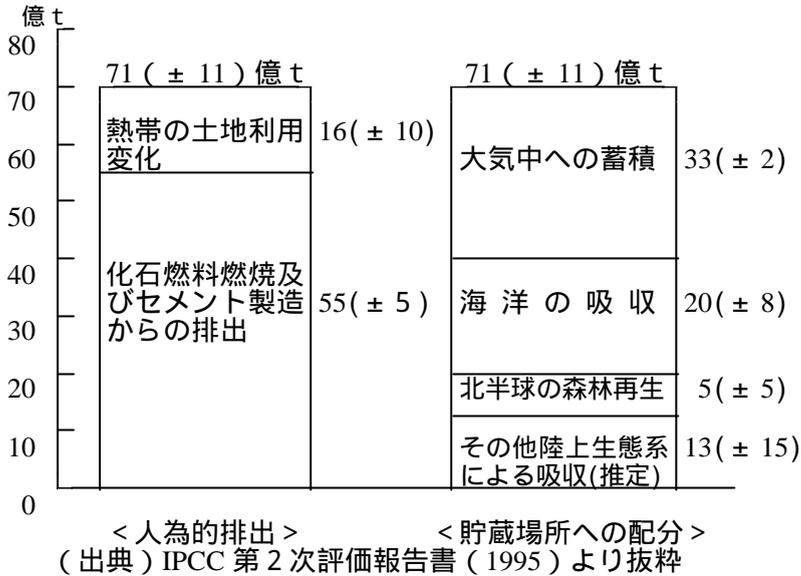
日本の年平均地上気温の平年差の経年変化（1898年～2000年）



〈出典〉「気候変動監視レポート2000」より抜粋

〈注〉棒グラフは各年の値。折れ線は各年の値の5年移動平均を、直線は長期傾向を示す。

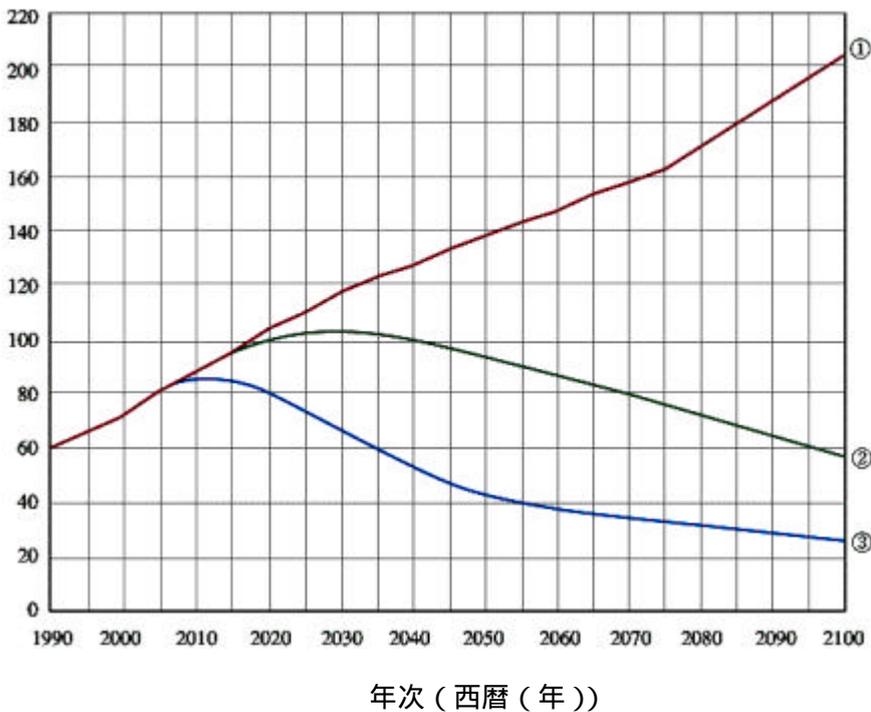
地球レベルの二酸化炭素排出と吸収等



現在、大気中には炭素が7千数百億t蓄積されていると推計されている。化石燃料の燃焼等により1年間に人為的に放出されているCO₂等の量は、約70億t程度で、その約半分が大気中に残留し、大気中のCO₂濃度は年間約1.5ppmv (ppmvは100万分の1)の割合で増加を続けている、と報告されている。

二酸化炭素排出量の将来シナリオ

CO₂ 排出量
(炭素換算億トン)



① : 対策が進まずに推移したケース

② : 対策を徐々に強化し、来世紀後半から相当思い切った対策を行ってCO₂濃度を550ppm程度に留めようとするケース

③ : 早い時期から相当に強い対策を行っていき、CO₂濃度を450ppm程度に留めようとするケース。これに比べ、温度上昇の割合、影響の程度が少なくて済む。

(出典) 平成8年度環境白書より抜粋

地球温暖化による気温上昇・海面上昇の予測値

第3次報告書では中位値は示されていない

【1990～2100年の気温上昇】

	第1次報告書(1990年)	第2次報告書(1995年)	第3次報告書(2001年)
最大値	4.5 ()	3.5 ()	5.8 ()
中位値	3.0	2.0	-
最小値	1.5	1.0	1.4

【1990～2100年の海面上昇】

	第1次報告書(1990年)	第2次報告書(1995年)	第3次報告書(2001年)
最大値	100 (cm)	95 (cm)	88 (cm)
中位値	65	50	-
最小値	30	15	9

(出典) IPCC 各評価報告書にもとづき国土交通省国土計画局作成